差上申済口証文之事

甲州道中台ケ原宿旅籠屋拾四軒之者より同孫右衛門江相懸リ、近来旅人通行至而薄、連々及困窮、旅籠屋相続難成旅人融通仕度旨奉出訴候一件、双方被召出御吟味中ニ御座候処、同宿寺社并長百姓幸右衛門百姓代立入、御日延奉願上、双方江異見差加江熟談内済仕候趣、乍恐左ニ奉申上候、

一旅人休泊之儀ハ、旅籠屋之内衰微ニ相成候者茂有之候ニ付、困窮立直リ之ため、旅籠屋平均を以相互ニ助合、当年より来ル亥七月迄四ケ年半之間、定宿并差名旅人之分ハ七人ニ相限リ、尤右人数より多分之組合参リ候節ハ、譬へ先客有之候共、取定之人数不足之内ハ、相互ニ何程成共宿不引分ヶ分ハ壱軒ニ而止宿為仕可申候、其外旅人休泊之儀ハ、右四ケ年半之間九人を相限リ、都合拾六人ニ相定、渡世仕可申候、且又旅人組合多分ニ参リ候共、前書定宿差名旅人同様ニ取計可申候、

且御諸士様方之儀ハ御引分リ不申候ハハ、何人ニ而茂相互ニ御宿可仕候、右年季過候ハハ、是迄之通旅人休泊出精次第渡世仕可申候、万一未熟之者有之、困窮立直リ不申候共、其節至リ申分毛頭無御座候、以来右躰之儀、相互ニ決而申間敷候事、

前書之趣を以、双方無申分自得和融仕、憤リ之儀ハ扱人貫請熟談相整、誠ニ御威光と難有仕合ニ奉存候、何卒御慈悲を以御吟味是迄ニ而、先達而旅籠屋より奉差上置候願書御下ケ、内済之趣御聞済被下置度奉願上候、然上ハ右一件ニ付、重而双方より御願筋毛頭無御座候、依之双方并扱人両宿連印済口証文差上申

処、仍如件、

文化八未年四月

台ケ原宿
本　陣
訴訟方　伝右衛門（印）
脇本陣
同　平右衛門（印）
問　屋
同　半左衛門（印）
年　寄
同　宇右衛門（印）
長百姓
同　八右衛門（印）
同　善右衛門（印）
同　弥　源　治（印）
同　伝　兵　衛（印）
同　茂左衛門（印）
同　恒左衛門（印）
同　彦　蔵（印）
同　市右衛門（印）
同　和　平　治（印）
同　六郎右衛門（印）
同宿

長百姓
相手方　孫右衛門（印）
扱　人
寺社惣代
神　主　古屋和泉（印）
長百姓
扱　人　幸右衛門（印）
組頭惣代
同　　文　蔵（印）
右郷宿
井筒屋　庄　蔵（印）
河内屋　平　七（印）

野田松三郎様
甲府御役所

差上申済口証文之事

甲州道中台ケ原宿旅籠屋拾四軒之者より同孫右衛門江相懸リ、近来旅人通行至而薄、連々及困窮、旅籠屋相続難成旅人融通仕度旨奉出訴候一件、双方被召出御吟味中ニ御座候処、同宿寺社并長百姓幸右衛門百姓代立入、御日延奉願上、双方江異見差加江熟談内済仕候趣、乍恐左ニ奉申上候、

一旅人休泊之儀ハ、旅籠屋之内衰微ニ相成候者茂有之候ニ付、困窮立直リ之ため、旅籠屋平均を以相互ニ助合、当年より来ル亥七月迄四ケ年半之間、定宿并差名旅人之分ハ七人ニ相限リ、尤右人数より多分之組合参リ候節ハ、譬へ先客有之候共、取定之人数不足之内ハ、相互ニ何程成共宿不引分ヶ分ハ壱軒ニ而止宿為仕可申候、其外旅人休泊之儀ハ、

分ハ壱軒ニ而止宿為仕可申候、其外旅人休泊之儀ハ、右四ケ年半之間九人を相限リ、都合拾六人ニ相定、渡世仕可申候、且又旅人組合多分ニ参リ候共、前書定宿差名旅人同様ニ取計可申候、且御諸士様方之儀ハ御引分リ不申候ハハ、何人ニ而茂相互ニ御宿可仕候、右年季過候ハハ、是迄之通旅人休泊出精次第渡世仕可申候、万一未熟之者有之、困窮立直リ不申候共、其節至リ申分毛頭無御座候、以来右躰之儀、相互ニ決而申間敷候事、

前書之趣を以、双方無申分自得和融仕、憤リ之儀ハ扱人貫請熟談相整、誠ニ御威光と難有仕合ニ奉存候、何卒御慈悲を以御吟味是迄ニ而、先達而旅籠屋より奉差上置候願書御下ケ、内済之趣御聞済被下置度奉願上候、然上ハ右一件ニ付、重而双方より御願筋毛頭無御座候、依之双方并扱人両宿連印済口証文差上申処、仍如件、

台ケ原宿

文化八未年四月

本　陣

訴訟方　伝右衛門（印）

文化八未年四月

本　陣
訴訟方　伝右衛門（印）
脇本陣
同　平右衛門（印）
問　屋
同　半左衛門（印）
年　寄
同　宇右衛門（印）
長百姓
同　八右衛門（印）
同　善右衛門（印）
同　弥　源　治（印）
同　伝　兵　衛（印）
同　茂左衛門（印）
同　恒左衛門（印）
同　彦　蔵（印）
同　市右衛門（印）
同　和　平　治（印）
同　六郎右衛門（印）
同　宿
長百姓
相手方　孫右衛門（印）
扱　人

寺社惣代
神　主　古屋和泉（印）
長百姓
扱　人　幸右衛門（印）

同　　和　平　治（印）
同　　六郎右衛門（印）
同　宿
長百姓
相手方　孫右衛門（印）
扱　人
寺社惣代
神　主　古屋和泉（印）
長百姓
扱　人　幸右衛門（印）
組頭惣代
同　　文　蔵（印）
右郷宿
井筒屋　庄　蔵（印）
河内屋　平　七（印）

野田松三郎様
甲府御役所